

令和元年 7月17日

熊取町教育委員会 様

教育委員会評価委員会委員 幸野 信 寿  
教育委員会評価委員会委員 大野 廣 介

熊取町教育委員会活動の点検及び評価（平成30年度事業対象）  
に対する意見書

地方教育行政の組織及び運営に関する法律第26条の規定により、熊取町教育委員会が、その権限に属する事務の管理及び執行の状況について点検及び評価を行うにあたり、次のとおり意見を述べる。

## 意 見

熊取町教育委員会活動の点検・評価報告書の作成に際し、教育委員会事務局職員より聞き取りを行った。平成30年度においても、学校教育及び社会教育の両面で、現状と課題を見据えつつ、積極的な取組みを行うなど、現状に止まることなく課題解決に向けた新たな事務事業を適時適切に進めていることが十分に理解できたところである。

今後も、下記の点に留意し、創意工夫のもとに取り組んでいただきたい。

## 記

- 1 全体として、教育委員会が様々な取組みを進め、着実にその成果を上げていることが理解できる。なお、各点検評価項目の取組結果から、今後の課題や方向性をより一層明確化していくためにも、引き続き事業内容の精査に努められたい。
- 2 児童・生徒の教育環境については、小・中学校へのエアコン整備により大きく改善が図られたところであるが、一方で、トイレの洋式化整備も児童・生徒にとって大切であり、計画的かつ早期に整備を図られたい。

- 3 熊取町では、平成 30 年度から ALT を 1 名増員して 6 名配置とし、とりわけ、各中学校への 1 名配置は府内でも高い配置率であり、また、「くまとり英語村」の開催なども含めて、使える英語を身につけさせる取組みは大きく評価できる。今後も、ALT を活用した授業の工夫など、児童・生徒の英語力を高める取組みを進められたい。
- 4 中学生の放課後の居場所づくりと学習支援を兼ねた「中学校放課後自習室」については、煉瓦館の自習室の活用を始めるなど工夫して実施いただいている。青少年の成長の過程での有意義な取組みであるので、根気強く、さらに工夫して取り組んでいただきたい。
- 5 学校のクラブ活動など、自主活動の場では、「あいさつをする」「ルールを守る」「掃除をする」など、児童・生徒が社会の一員としての自覚と規範意識を自ずと学べる場としての活用を図っていくことも大切であると考えている。
- 6 4つの大学等が熊取町に立地するという特性を活かして、様々な事業を実施されていることは評価できる。今後も、大学等との連携・協調という枠組の中で、さらなる事業施策の構築及び積極的な展開を図られたい。
- 7 煉瓦館をはじめ、図書館、公民館・町民会館、ひまわりドームなどの社会教育施設については、それぞれの特性を活かして様々な講座や活動等を積極的に展開しており、このことは、熊取町の住みよいまちづくりに大きく寄与しており、誇れる面であると評価できる。  
今後も、より一層、幅広い世代の方々が参加しやすい環境づくりに努めるとともに、参加を促すための PR にも尽力されたい。